

物語を読むひと

名劇

学習日

ポイント

○物語を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化をとらえましょう。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

《白という名の犬は、黒が犬殺しにやられたあと、逃げるように、今いる路地へやってきました。》

「きゃん。きゃん。助けてくれえ！ きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！」

白は思わず身ぶるいをしました。①この声は白の心の中へ、あの恐ろしい黒の最後を、もう一度はつきり浮かばせたのです。白は目をつぶったまま、もと来たほうへ逃げ出そうとしました。けれどもそれは言葉どおり、ほんの一瞬の間のことです。白はすさまじいなり声をもらすと、きりりとまた振り返りました。

「きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！ きゃあん。きゃあん。助けてくれえ！」

この声はまた白の耳には、こういう言葉にも聞こえるのです。

「きゃあん。きゃあん。臆病ものになるな！ きゃあん。臆病ものになるな！」

白は頭を低めるが早い、声のするほうへ駆け出しました。

けれどもそこへ来て見ると、白の目の前へ現われたのは犬殺しなどではありません。ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです。子犬はいっしょうけんめいに引きずられまいともがきもがき、「助けてくれえ」とくり返していました。しかし子供たちはそんな声に耳をかすけしきもありません。ただ笑ったり、どなったり、あるいはまた子犬の腹を靴でけったりするばかりです。

白は少しもためらわずに、子供たちを目がけて吠えかかりました。不意を打たれた子供たちは②驚いたの驚かないのではありません。また実際白のようすは火のように燃えた目の色といい、刃物のようにむきだした牙の列といい、今にもかみつくかと思うくらい、恐ろしいけんまくを見せているのです。子供たちは四方へ逃げちりました。中にはあまり*狼狽したはずみに、道ばたの花壇へとびこんだのがあります。白は二、三間追いかけた後、くるりと子犬をふり返ると、しかるようにこう声をかけました。

「さあ、おれといっしょにこい。お前の家まで送ってやるから」

物語を読むこと

白はもと来た木々の間へ、まっしぐらにまた駆けこみました。茶色の子犬もうれしそうに、ベンチをくぐり、ばらをけちらし、白に負けまいと走って来ます。まだ首にぶら下がった、長い縄を引きずりながら。

〈芥川龍之介「白」より〉

(注) 狼狽 Ⅱ うろたえること。

(1) — 線① 「この声」とは、だれの声ですか。本文中から十六字で書きぬいて答えなさい。

[illegible]

物語を読むひと

問題

解答	アドバイス
<div data-bbox="1776 225 1841 288">◆</div> <p>(1) 首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬</p> <p>(2) ウ</p> <p>(3) ウ</p>	<div data-bbox="1776 639 1841 703">◆</div> <p>(1) このあとの本文中で、「ただ学校の帰りらしい、洋服を着た子供が二、三人、首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬を引きずりながら、何かわいわい騒いでいるのです」と、この場面を説明している部分があります。ここから十六字で「首のまわりへ縄をつけた茶色の子犬」を書きぬきます。</p> <p>(3) 白は茶色の子犬を助けたあと「さあ、おれといっしょにこい。お前の家まで送ってやるから」と言っ、子犬を家まで送り届けてやります。</p>